

「保健医療科学」 第 57 巻 第 4 号 予告

特集：がん対策の新たな展開 ―がん対策基本法に基づく総合的・計画的な推進に向けて― （仮題）

巻頭言 吉見逸郎

第一部 わが国のがん政策の動向

わが国におけるがん対策の現状と課題…………… 前田光哉

都道府県におけるがん対策の現状と課題…………… （岐阜県など未定）

第二部 がん対策の推進体制の動向

がん拠点病院の現状と課題…………… 山口健

放射線療法の推進の現状と課題…………… （国立がんセンター）

化学療法の推進の現状と課題…………… 藤原康弘

緩和ケアの推進の現状と課題…………… 江口研二

がん対策推進における国立がんセンターに期待される役割…………… 若尾文彦

がん検診の現状と課題…………… 斎藤博

第三部 世界のがん対策の動向

がん登録の現状と課題：国際的ながん対策の基盤としての観点から…………… 祖父江友孝

アメリカにおけるがん対策の実態（Comprehensive Cancer Control Plan を中心に）…………… 今井博久

イギリスにおけるがん対策の実態（NHS Cancer Plan を中心に）…………… 武村真治

第四部 まとめ

がん対策の推進の今後の展望：保健医療福祉制度におけるがん対策推進計画の位置づけ…………… 種田憲一郎

編 集 後 記

災害時対策とは、まさに「転ばぬ先の杖」である。災害は起こらないに越したことはなく、災害時医療従事者にも出勤依頼が来ないことが望ましい。この“起こるかもしれないが、起こらないかもしれない”事態に対して、どれだけの資本と人材を費やし、想像力を駆使して準備できるかは、まさにその国の真の力と言っても過言ではない。

以前、日本で地下鉄サリン事件が起こった後、その災害特性に注目して周到な対応策を練ったのは欧米先進諸国と言われる。ただ、先進国であるから先進機器や拮抗薬（PAM など）を準備したかという点必ずしもそれだけでなく、例えば英国の病院で準備したものは“バケツ”と言われる。揮発性化学物質の洗い流しと患者周囲の人への2次汚染を防ぐためには、水をかけて洗い流すことは単純でかつ効果的である（しかもバケツは拮抗薬を買うよりずっと安価）。緊急時に使用できるシャワーの数には限りがあるだろうし、移動できない。限られたコストでいかに単純でかつ効果的な対策を練るか、力の見せ所である。

災害時医療で重要なのは、時間軸に沿った連携のプロセスであろう。本特集では、日本が経験した阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などの経験から、行政や保健医療従事者の具体的かつ実践的な内容が網羅されている。かつては手薄であった PTSD への取り組みも、最近では目を見張るものがある。水道水は、蛇口をひねれば出るのが当たり前と思っているからこそ、無くなった時に与えるインパクトが大きい。常日頃どれだけ水道水の恩恵を受けているか、それを守る人々の存在がどんなに重要か思い知らされる。“日本にもこんなにたくさんボランティアがいたんだ！”と嬉しい驚きを覚えた阪神・淡路大震災から13年、ボランティア活動は改めて注目を集めている。様々な人々がお互いのために働く、災害時医療は、ネットワークの構築・再構築の場でもあるのだろう。「災害は、忘れた頃にやってくる」のだ。今夜は枕元にラジオと懐中電灯を置いて寝よう。そうそう、カップラーメンとお菓子も買って帰らないと（・・・保存食用？）。
（児玉 知子）

「保健医療科学」投稿規程

1. 投稿論文

公衆衛生および社会福祉の向上, 普及に資する研究, および活動報告とし, 「保健医療科学」編集委員会が掲載内容を決
定する (掲載は無料). ただし, 他誌に発表 (予定も含む) された論文は掲載しない.

2. 種類, 内容及び制限項数

論壇 (Commentaries)

: 公衆衛生および社会福祉の活動, 政策, 動向などについての提案, 提言 [5 頁以内]

総説 (Reviews)

: 研究・調査論文の総括及び解説 [12 頁以内]

原著 (Original Articles)

: 独創的な研究にもとづく新知見を含む論文 [10 頁以内]

ノート (Notes)

: 原著に比べて簡単に若干の新知見を含むもの [5 頁以内]

資料 (Research Data)

: 調査または統計などをまとめたもの [8 頁以内]

現場報告 (News from the Field)

: 国内外の公衆衛生および社会福祉に関する実践, 教育, 研究などの報告 [5 頁以内]

レター (Letters)

: 掲載論文に対する意見など [1 頁以内]

書評 (Book Reviews)

: 公衆衛生および社会福祉に関する図書などの紹介 [1 頁以内]

*なお, 刷り上り 1 項は 2,600 字相当

3. 発行頻度

年 4 回発行し, 4 号分をもって 1 巻とする. また必要に応じて補冊 (Supplement) を発行する.

4. 投稿方法

「投稿申込書」(様式 1) を添えて, 原本ならびに明瞭なコピーを 2 部提出する. なお, 原図, 写真などは汚損を避
けるため別にコピー 2 部を提出する.

なお, 執筆要領については別に定める.

5. 原稿採否

投稿論文の採否は, 複数の専門家による査読の結果に基づき, 編集委員会にて決定する.

6. 別刷り

50 部までは無料. 51 部以上は著者負担とする. また掲載誌 1 部を贈呈する.

7. 校正

著者校正は初校までとし, 脱落, 誤植などの校正とする. 原文および図表等の大幅な訂正などは認めない.

8. 出版権

本誌の出版権は本院に属する. なお, 他誌などにその全部または一部を使用する場合は本編集委員会の同意を必要とする.

9. 投稿先

「保健医療科学」編集委員会

〒351-0197 埼玉県和光市南 2-3-6

TEL. 048-458-6209 FAX. 048-469-0326

(平成 17 年 2 月 3 日)

保健医療科学 第57巻 第3号

編集委員

熊川寿郎	(編集委員長・経営科学部)
浅見真理	(水道工学部)
安藤雄一	(口腔保健部)
緒方裕光	(副編集委員長・研究情報センター)
加藤則子	(生涯保健部)
児玉知子	(政策科学部)
武村真治	(公衆衛生政策部)
種田憲一郎	(政策科学部)
橘とも子	(人材育成部)
星佳芳	(研究情報センター)
山岡和枝	(技術評価部)
泉峰子	(事務局・研究情報センター)

この刊行物に関する問い合わせは下記宛に願います

〒351-0197 埼玉県和光市南2-3-6 国立保健医療科学院 研究情報センター内「保健医療科学」編集委員会
tel: 048 (458) 6213 fax: 048 (469) 0326 e-mail: mineko@niph.go.jp

Journal of the National Institute of Public Health (Hoken Iryo Kagaku) Vol.57 No.3 2008

Editorial Board

Toshiro KUMAKAWA	(Editor-in-Chief, Department of Management Sciences)
Mari ASAMI	(Department of Water Supply Engineering)
Yuichi ANDO	(Department of Oral and Dental Health)
Hiromitsu OGATA	(Deputy Editor-in-Chief, Center for Information Research and Library)
Noriko KATO	(Department of Health Promotion)
Tomoko KODAMA	(Department of Policy Sciences)
Shinji TAKEMURA	(Department of Public Health Administration and Policy)
Kenichiro TANEDA	(Department of Policy Sciences)
Tomoko TACHIBANA	(Department of Human Resources Development)
Keika HOSHI	(Center for Information Research and Library)
Kazue YAMAOKA	(Department of Technology Assessment and Biostatistics)
Mineko IZUMI	(Editorial Office, Center for Information Research and Library)

保健医療科学 季刊 (年4回) 第57巻 第3号 2008年9月

発行所	国立保健医療科学院 〒351-0197 埼玉県和光市南2-3-6 tel. 048 (458) 6111 (代表)
印刷所	株式会社コームラ 〒501-2517 岐阜市三輪プリントピア3 tel. 058 (229) 5858 (代表)

All communications relating to this publication should be addressed to the Editorial Office of Journal of the National Institute of Public Health, Center for Information Research and Library of the National Institute of Public Health, 2-3-6, Minami, Wako, Saitama-ken, 351-0197, Japan.

Journal of the National Institute of Public Health

(Hoken Iryo Kagaku)

Vol.57 No. 3

CONTENTS

Preface S. TAKEMURA	195
Topics – What Should Health Professionals Do for a Disaster? : the Gap Between Expectation and Fact	
Y. SUZUKI: Role of Health and Welfare Department of Prefectural and Municipal Government in Emergencies and Disasters	196
M. NAITO, M. HIRANO: What Should Medical Personnel Do in a Time of Disaster and Disaster Preparedness?	206
H. OKUDA: Support Activities of Suffering from the Natural Disaster by Public Health Nurse	213
N. SUDO, N. YOSHIKE: Role of Administrative Dietitians in Health Emergencies	220
K. NAKAKUKI, K. HOSHI, J. TSURUTA, S. MURAI, T. KOMURO, H. TOHARA, A. KOJO, K. TERAOKA: The Roles of Dental Healthcare Professionals at Disasterous Situations	225
Y. SUZUKI: Role Identification and Coordination of Care in Disaster Mental Health	234
Y. YAMAMOTO: Needs for Water in the Time of Disaster	240
T. OJIMA, Volunteer Research Group: Role of Non-Professional Volunteers in Disaster Response	245
Review	
M. KIMURA: Social Capital, Its Introduction in Public Health, and Subsequent Controversies in Western Countries	252
Educational Reports	